

# インフルエンザ

## ■一般事項

- 毎年冬季に流行を繰り返し、人口の5～10%が罹患します。  
日本では600万～1200万人の患者が出ていることになります。
- インフルエンザウイルスはRNAウイルスで、A、B、C型がありますが、大きな流行を起こすのはA型とB型で、この2種類が通常、インフルエンザといわれています。
- ヒトのインフルエンザには、HAが3種類（H1、H2、H3）、NAが2種類（N1、N2）あります。
- 潜伏期が短く、24～48時間前後です。

## ■症状

- 感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期の後に、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが突然あらわれ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的です。
- 嘔吐、下痢などの胃腸症状は少ないといわれています。
- 一般的にA型の方がB型よりも症状が強く出るといわれています。
- 成人では、B型インフルエンザでは比較的軽症であるといわれています。
- 小児でも、学童は成人と同様の典型的なインフルエンザ症状を呈することが多いです。しかし、低年齢の乳幼児になると、全身症状は目立たず呼吸器症状が中心となり、RSウイルス感染や普通感冒との鑑別が困難となります。
- 小児ではA香港型とB型インフルエンザは症状は同程度に重く、発熱期間はB型の方が長いことが多いです。

## ■無症候性インフルエンザ

- 最近では成人や小児でも、微熱あるいは無熱のインフルエンザ患者がかなり存在することが明らかになってきました。
- 37.5℃以上の発熱がないか、中等度以上の何らかの症状がないものを無症候性インフルエンザといいます。
- 無症候性インフルエンザの割合は18.0%という報告や39.0%という報告があります。



参考「[インフルエンザ診療ガイド2019-20] [インフルエンザ・肺炎球菌感染症（B類疾患）予防接種ガイドライン2019年]

[誰も教えてくれなかった「風邪」の診かた 2013年] [日本小児科学会の「知っておきたいわくちん情報」2018年]

[総合診療 2018年4月] [病歴と身体所見の診断学 2017年] [Gノート別冊 Common Disease の診療ガイドライン 2017年] [小児科診療 2018年増刊号]